

38th FEFCO

Forest Ecosystem Function Colloquium (FEFCO) は、地域や地球全体のレベルで森林生態系の機能とその持続的活用法を統合的に理解することを目的とし、研究者間の学術交流を推進します。

第38回森林生態系機能コロキウムは森林総合研究所関西支所から梅村光敏さんをお迎えして開催いたします。京都大学農学研究科熱帯林環境学分野がホストを務めます。

38th FEFCO

2017/6/1 16:30-18:00

Faculty of Agriculture Main Building, S174

Language: Japanese

梅村光敏 (森林総研・関西支所)

Dr. M. Umemura (FFPRI, Kansai, Japan)

元素動態からとらえるモウソウチク林の生態系 Dynamics of nutritional elements in Moso bamboo (*Phyllostachys pubescens*) forests

近年、日本各地の里山において、管理が行き届いていない広葉樹林やスギ・ヒノキ人工林へ外来植物であるモウソウチクが侵入し拡大している。温帯性タケ類であるモウソウチクは、地下茎を介した養分輸送と節間伸長によって、素早い成長と地下茎伸長を遂げる。この特異な成長メカニズムを駆動させる一つの要素である養分元素に着目し、モウソウチクのフェノロジーに連動した元素の転流や器官毎の局在性から、タケにおける養分元素の生理的役割と成長・繁殖戦略について考察する。また、タケはイネ科でケイ酸集積植物として知られており、自身のこれまでの研究から、特に葉に集積したケイ酸は、植物ケイ酸体として落葉によって地表に供給され、竹林林床に巨大な植物ケイ酸体プールが形成されることを明らかにしてきた。本講演では、タケ体内から竹林生態系、竹林の拡大における物質循環系の変化に至るまでを、視点を変えながら考察し、モウソウチク林のもつ養分元素の生物地球化学的動態の特徴について紹介する。